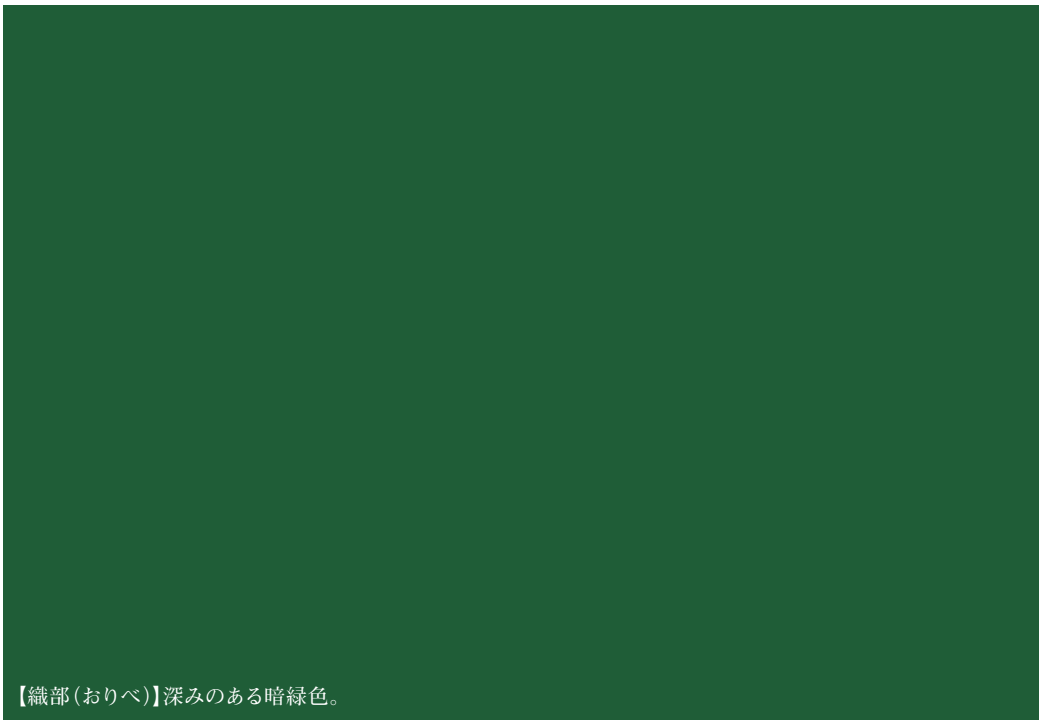
Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

9月号—No.281
2018.8.25
（毎月1回25日発行）



【織部（おりべ）】深みのある暗緑色。

千利休の弟子だった大名茶人、古田織部が創始した織部焼の美しい緑青に由来する色名。釉薬の違いによって緑青の青織部の他に、黒織部、赤織部、志野織部がある。唐三彩の緑への憧れからこの色が生まれたとも言われているが、どこか別の世界に繋がっているような青織部の陰影ある緑はまた格別だ。

●目次／*contents*

今月のニュース……2

地域創造フェスティバル2018報告

財団からのお知らせ……4

平成31年度「地域伝統芸能等保存事業／映像記録保存事業」助成要綱決定／平成30年度「公立美術館共同巡回展企画支援事業」実施館が巡回展参加館を募集中／平成30・31年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」秋田セッション報告

今月の情報……5

地域通信／特集 アートプロジェクト／アーツセンター情報

今月のレポート……12

横浜市　KAAT神奈川芸術劇場　KAATキッズ・プログラム2018「キッズ・サマー・パーティー in KAAT高原キャンプ場」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

●地域創造フェスティバル2018

アーティスト62組の実演とタイムリーな2つのシンポジウム

地域創造フェスティバル2018報告

2018年7月31日、8月1日

写真

左：シンポジウム「2020の先にあるもの～文化芸術基本法成立から1年、今、地域が取り組むべきこと～」

右：おんかつ支援プレゼンテーションの様子（ピアニスト中川賢一さん）

●地域創造フェスティバル
地域創造の事業紹介を目的に年1回開催しているフェスティバル。音楽、ダンスのアーティストによる多彩な実演（プレゼンテーション）、シンポジウム、セミナーなどを実施するとともに、財団事業の説明会を開催。アーティスト、全国のホール関係者、専門家が一堂に集い、交流する貴重なプラットフォームとなっている。会期中に都道府県・政令市課長会議を同時開催。

＊1 八戸ポータルミュージアム はっち、八戸ブックセンター、準備中の新美術館。

11回目となる地域創造フェスティバルを7月31日、8月1日に東京芸術劇場で開催しました。今年は、音楽とダンスを合わせて計62組のアーティストが集結。意欲的なプレゼンテーションが行われるとともに、今日的なテーマのシンポジウムを開催し、大盛況となりました。開催にご協力いただきました関係の皆様、全国からご来場くださいました公立ホールや自治体の皆様には、心よりお礼申し上げます。

●テーマは“2020以降のレガシー”

今回は、東京オリンピック・パラリンピック後を見据えた「2020の先にあるもの～文化芸術基本法成立から1年、今、地域が取り組むべきこと～」と題したシンポジウムを行いました。昨年度まで文化庁文化審議会委員を務めた東京藝術大学教授・熊倉純子さん、現在同委員のニッセイ基礎研究所研究理事・吉本光宏さんに加え、創造都市として文化のまちづくりに取り組む新潟市と八戸市の担当者が顔を揃えるとあって大盛況でした。

まず、熊倉さんによる基調講演が行われ、文化芸術を豊かにするための文化芸術振興基本法から文化芸術で社会が豊かになる文化芸術基本法の成立に至る流れと、基本法に基づきこの3月に政府が閣議決定した「文化芸術推進基本計画」について解説が行われました。その中でも特に強調されたのが計画の4つの目標のひとつとして掲げられた「地域の文化芸術を推進するプラットフォーム」の形成であり、そのための「専門人材の育成と登用」や「文化芸術団体・諸機関の連携・協働」の重要性なども指摘されていました。

この基調講演を受けたシンポジウムの冒頭、モデレーターの吉本さんが、「2020に惑わされないために文化プログラムに取り組まない選択肢もある」と切り出すと、一瞬会場に緊張が広がりました。その後、2012年ロンドン大会におけるイギリスの文化プログラムの事例を紹介。「やるなら発想を転換し、大会のためのプログラムではなく、地域にどんな意義があるのか、2021年以降の地域文化ビジョンを考え、この機会でなければできないことを企画し、地域の文化的なレガシーに繋げることが必要」とエールを送っていました。

次に、地域のプラットフォームの実例として2つの都市の取り組みが紹介が紹介されました。新潟市文化スポーツ部参事・政策監の真田弘彦さんは、創造都市の歩みとともに2016年に新潟市芸術文化振興財団に事務局を設置して立ち上げたアーツカウンシル新潟について紹介。また、専門人材の登用という観点を踏まえて、八戸市まちづくり文化推進室芸術環境創造専門員の高橋麻衣さんは、「生活に文化芸術が溶け込むまちづくり」を推進する八戸市の施設整備(*1)やアートプロジェクトについて紹介しました。

ディスカッションでは、「求められることが高度化して一般行政マンでは対応しきれないところがある」「立場の異なる行政マン、施設のコーディネーター、専門員、アドバイザリーボードが一緒に話し合える状態になっていない。専門家によって求めていることが異なっていて、それぞれの理想を語り合っている状況」「関連分野と連携するといっても、どこが主導するのか、予算はどちらに振り分けるのかといったことが

課題になる。それでも懲りずにやり続けることが大切」など、忌憚のない現場の声にたくさんの課題をもらったシンポジウムでした。

●おんかつ20周年、アウトリーチを振り返る

おんかつ(公共ホール音楽活性化事業)は今年で20周年を迎えます。この間、アウトリーチという考え方は広く普及し、プログラムも多様化してきました。今回のフェスでは、新旧のおんかつコーディネーターがパネリストを務め、アウトリーチについて考えるシンポジウム「アウトリーチの忘れ物」も開催しました。

唯一外部の有識者として登壇したのが、廃材を創造的に活用するものづくりプロジェクトを各地で展開している大月ヒロ子さんです。調布市文化会館たづくりが小学校にアウトリーチしている「フィルム缶にアート」(*2)について紹介。「この展覧会ではアーティストのものづくりに市民が立ち会うので、市民は廃材がアートになる瞬間を目撃できた。そのことがとても大切。また、アウトリーチは廃材を通じて地域を学ぶきっかけになり、ホールと地域を繋ぐ機会になっている」と大月さん。

また、平成13年度からおんかつ事業に携わり、現在チーフコーディネーターを務める小澤櫻作さんは、初期の実験的なプログラムや学校にアウトリーチを受け入れてもらうことが困難だった時代を振り返るとともに、「アウトリーチによってホール運営を強くすることができたのか、地域の人から愛されるホールになれたのか」と問題提起。

現役のおんかつコーディネーターも交えたディスカッションでは、音楽やアートの「本質的な価値」と「社会的な価値」について意見交換が行われ、「コンサートもアウトリーチも本気で音楽を伝えることに差はない」「社会的に評価されてから安易にアウトリーチに取り組んでいる」「アーティストがリスペクトしている芸術に対する共感が足りないのではないか」「アーティストが“なぜ自分は音楽をやっているのか”という自問自答に辿り着いたところからアウトリーチは始まる」などなど、おんかつの基本と向き合う言葉が続きました。

●多彩なプレゼンテーション

今回は、平成31年度ダン活(公共ホール現代ダンス活性化事業)登録アーティスト8組、おんかつ支援登録アーティスト54組がプレゼンテーションを行いました。ダン活では、コーディネーター7名が各自の取り組みをセミナーで紹介した後、登録2年目になるアーティストが、コンテンポラリーダンスから舞踏まで、参加者と共に多彩なワークショップを展開。それぞれの持ち味を生かしたファシリテーションに初心者もすっかり引き込まれていました。

また、おんかつでは経験豊かなベテランがこの1年の成長を盛り込んだプレゼンテーションを展開。子どもたちと曲づくりを行う新しいアウトリーチの実演、音楽の多様性を伝える曲で構成した“音楽のたまて箱”、珍しい楽譜によるヴァイオリン演奏、30分間トークなしでひとつのストーリーを伝えたチャレンジングなプログラム、打楽器の身近な魅力を伝えるためにさまざまな日用品を持ち込んだパーカッショニスト、登録アーティスト同士のコラボレーションなど、工夫されたパフォーマンスが続きました。

上:ダン活プレゼンテーション(東野祥子さん)
下:ダン活セミナー「ダンスと地域をつなぐ面白さ、ダンスの可能性に迫る」

*2　地元を歩いて集めた廃材をフィルム缶にレイアウトして写真を撮影するもの。廃材を活用してアーティストと市民が作品づくりを行った展覧会から生まれたプログラム。

地域創造フェスティバル2018　プログラム

1日目(7月31日)

●シンポジウム「2020の先にあるもの～文化芸術基本法成立から1年、今、地域が取り組むべきこと～」
[基調講演]「地域の文化芸術政策とプラットフォーム」熊倉純子
[モデレーター]吉本光宏　[パネリスト]熊倉純子、真田弘彦、高橋麻衣

●ダン活セミナー「ダンスと地域をつなぐ面白さ、ダンスの可能性に迫る」
[講師]大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中冨勝裕、中西麻友、宮久保真紀

●ダン活プレゼンテーション
[アーティスト]中村蓉、鈴木ユキオ、田畑真希、東野祥子、長井江里奈、田村一行、北尾亘、セレノグラフィカ

●おんかつ支援プレゼンテーション
【ピアノ】新崎誠実、佐々木京子、泊真美子、中川賢一　【ヴァイオリン】北島佳奈、松本蘭、早稲田桜子　【チェロ】海野幹雄、加藤文枝、長谷部一郎　【フルート】森岡有裕子　【サクソフォン】田村真寛　【トランペット】高見信行　【トロンボーン】加藤直明　【ソプラノ】乗松恵美、廣田美穂　【メゾ・ソプラノ】菅家奈津子　【バリトン】ヴィタリ・ユシュマノフ　【マリンバ】大熊理津子、塚越慎子　【パーカッション&ボイス】野尻小矢佳　【クラシック・ギター】松尾俊介　【リコーダー】江崎浩司　【クラリネット&ピアノ】デュオ・レゾネ　【サクソフォン四重奏】Quartet SPIRITUS(サクソフォン四重奏)　【木管五重奏】Quintet H　【ブラスバンド】BLACK BOTTOM BRASS BAND

2日目(8月1日)

●地域創造助成要綱説明会／公立美術館活性化事業説明会／リージョナルシアター事業説明会

●おんかつシンポジウム「アウトリーチの忘れ物」
[モデレーター]津村卓　[パネリスト]吉本光宏、大月ヒロ子、小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子

●おんかつ支援プレゼンテーション
【ピアノ】新居由佳梨、岩崎洵奈、久保田葉子、白石光隆、田村緑　【ヴァイオリン】礒絵里子、大森潤子、坂口昌優、高橋和歌　【チェロ】奥田なな子　【フルート】荒川洋、吉岡次郎　【ホルン】小川正毅　【テューバ】喜名雅　【テノール】黒田晋也、中井亮一　【バリトン】吉川健一　【マリンバ】浜まゆみ　【打楽器】前田啓太　【箏】片岡リサ　【ピアノデュオ】デュエットゥ かなえ&ゆかり、ピアノデュオ・ドゥオール　【ピアノ&チェロ】Duo Yamaguchi　【箏デュオ】Dual KOTO×KOTO　【ピアノトリオ】ピアノトリオ・ミュゼ　【サクソフォン四重奏】Quatuor B　【金管五重奏】Buzz Five

財団からのお知らせ

●平成31年度「地域伝統芸能等保存事業／映像記録保存事業」助成要綱決定

地方公共団体等が実施する、各地域固有の伝統芸能等の記録・保存・継承事業に対して助成する地域伝統芸能等保存事業。平成31年度も、先月号に掲載した「地方フェスティバル事業」と「保存・継承活動支援事業」に加え、「映像記録保存事業」を実施します。

募集締切：平成30年10月1日（月）必着

◎映像記録保存事業
市区町村が実施する、各地域の失われつつあり、且つ記録に残されていない地域固有の伝統芸能等を映像に記録・保存する事業に対して助成する事業。
［事業実施者］政令指定都市を含む市区町村
［助成率］3分の2以内　［助成上限額］200万円
［助成対象期間］1年間

●「地域伝統芸能等保存事業／映像記録保存事業」助成要綱および申請書類等は、当財団のウェブサイトに掲載しています。
http://www.jafra.or.jp
→「様式箱」よりダウンロードできます。
※申請書は、都道府県が都道府県内の市区町村の分を取りまとめて、地域創造へ提出してください。各市区町村においては、とりまとめ団体の期限も確認し提出してください。事業実施者が政令指定都市の場合は、直接地域創造へ提出してください。

●「地域伝統芸能等保存事業／映像記録保存事業」に関する問い合わせ
総務部　米山
Tel. 03-5573-4056

●平成30年度「公立美術館共同巡回展企画支援事業」実施館が巡回展参加館を募集中

本年度の「公立美術館共同巡回展企画支援事業」として、奥田元宋・小由女美術館（広島県三次市）と富山県水墨美術館（富山県富山市）が、両館の立案による「丸木位里展―水墨の実験から原爆の図へ―（仮称）」展の企画検討作業を行っています。現在両館は、平成31年度準備・32年度開催の「公立美術館共同巡回展開催助成事業（2カ年プログラム）」への申請に向けて、参加館を募集しています。ご興味のある館は、両美術館の担当学芸員へ直接お問い合わせください。

◎奥田元宋・小由女美術館
Tel. 0824-65-0010（担当学芸員：永井明生）
◎富山県水墨美術館
Tel. 076-431-3719（担当学芸員：若松基）

「丸木位里展―水墨の実験から原爆の図へ―（仮称）」展 企画案

丸木俊（赤松俊子）との合作である「原爆の図」シリーズで広く知られる丸木位里。しかし、位里の画家としての全体像を「原爆の図」だけでとらえることはできません。特筆すべきなのは、昭和10年代における幅広い前衛的な表現の追求、とりわけ水墨を用いた実験的な創作とその成果と言えるでしょう。

昭和13（1938）年、画家仲間の岩橋英遠や船田玉樹らによって結成された歴程美術協会に位里は第1回展から参画し、シュルレアリスムや抽象表現などを大胆に取り入れた作品を数多く発表していきました。水墨による濃淡やにじみが独特の沈潜した雰囲気を醸し出す位里のスケールの大きな作風は、戦後も「原爆の図」や国内外の雄大な風景などに展開されていきました。

この巡回展では、これまでの丸木位里に関する先行研究を土台とし、新知見を加えながら、その画業の全貌を紹介します。

●「公立美術館共同巡回展企画支援事業」に関する問い合わせ
総務部　高野
Tel. 03-5573-4143

●平成30・31年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」秋田セッション報告

都道府県と連携し、地域での演奏活動を通じて創造性豊かな地域づくりに資することを目的とした本事業は、平成30・31年度に秋田県で実施しています。今年度は、「アウトリーチ・シンポジウム～こどもたちにホンモノの音楽を届けよう！～アウトリーチのすすめ～」と題したシンポジウムを、6月7日に秋田市内のアトリオンで開催しました。

今回は県内7市町村の担当者を含む約30人が参加し、アウトリーチの実際と可能性についての理解を深めました。また、平成28・29年度の愛知セッションで派遣されたLes Vents Japonais（木管五重奏）による、小学4、5年生を想定したアウトリーチプログラムの実演が行われ、参加者からは「地元の小学生にも聴かせてあげたい」「実際の様子がわかってよかった」と好評を得ました。実演後のトークセッションでは、「これまで演奏を中心に活動し、普段なら簡単に決めることのできる曲目も、45分のアウトリーチプログラムをつくるときはとても難しかった」とアーティストの本音が語られたのが印象的でした。

来年度は、4月の研修会より本格的に事業がスタート。参加アーティストがアウトリーチを学ぶ研修を行った後、県内市町村で小学校などへのアウトリーチやコンサートを行い、11月の参加アーティスト全員によるガラコンサートまで続きます。現在、秋田セッションへの派遣アーティストを募集中です。

アウトリーチ実演の様子

●「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　山居（やまずい）
Tel. 03-5573-4069

Facebookをはじめました
Facebook（フェイスブック）に地域創造ページを開設しました。当財団のニュースや各地域の公立文化施設で行われるイベント情報など、アーティストや芸術文化に携わるすべての人たちへ向けて情報を発信していきますのでぜひご覧ください。
@RegionalArtActivities
（左QRコードからもアクセスできます）

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　三田・高澤

●2018年11月号情報締切
10月1日(月)

●2018年11月号掲載対象情報
2018年11月～18年2月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●青森県青森市
めがねと旅する美術展青森実行委員会
〒038-0021　青森市安田字近野185(青森県立美術館内)
Tel. 017-783-3000　工藤健志
http://www.aomori-museum.jp/ja/

めがねと旅する美術展
2010年から4年おきに開催してきた近現代の視覚文化と身体表象を考察する一連の展覧会の最終章。江戸時代の《洛中洛外図屏風》や浮世絵、近現代の美術作品から、映画やアニメ、数々の視覚体験装置、最新のVRまで250点を超える作品と資料で、19世紀以降、劇的な発達を遂げた視覚文化の歴史を紹介する。
[日程]7月20日～9月2日
[会場]青森県立美術館

●岩手県西和賀町
西和賀町文化創造館
〒029-5511　和賀郡西和賀町上野々39-195-2
Tel. 0197-82-3240　小堀陽平
https://gingahall.jimdo.com/

第26回銀河ホール地域演劇祭
ホール開館以来続いている地域演劇祭。26回目を迎える今回は、岩手・花巻出身の宮沢賢治の作品を取り上げる。地元劇団ぶどう座をはじめ、西和賀・島根・東京の4団体による作品が上演されるほか、2日の上演後には、宮沢賢治記念館の学芸員を招いたトークも開催する。
[日程]9月1日、2日
[会場]西和賀町文化創造館(銀河ホール・Uホール)、劇団ぶどう座稽古場

関東

●栃木県鹿沼市
かぬま文化・スポーツ振興財団
〒322-0069　鹿沼市坂田山2-170
Tel. 0289-65-5581　佐藤雅由
http://www.bc9.ne.jp/~kousya/index.html

創作エイサー 琉球國祭り太鼓 ～あなたと鹿沼で あっり乾杯!～
1982年に沖縄市で結成された創作エイサー団体「琉球國祭り太鼓」。2014年10月現在、沖縄県内に8支部、県外に38支部、海外には12支部があり、世界規模での広がりを見せている。今回は鹿沼市制70周年記念事業として、栃木支部を中心に全国各地の支部が集まり演奏が披露される。沖縄の伝統芸能エイサーを基本に、琉球空手の型や琉球舞踊をはじめ、沖縄独自のロックやポップス曲を取り入れた創作エイサーが見どころ。
[日程]9月2日
[会場]鹿沼市民文化センター

琉球國祭り太鼓

●さいたま市
埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506　さいたま市中央区上峰3-15-1
Tel. 048-858-5506　高井はるか
http://www.saf.or.jp/

世界ゴールド祭2018
高齢者の表現活動に取り組んできた彩の国さいたま芸術劇場が今年から新たに立ち上げる高齢者舞台芸術の祭典。英国サドラーズ・ウェルズ劇場の高齢者カンパニーによるダンス作品や、国内外のアーティストとさいたまゴールド・シアターのコラボレーション、60歳以上の芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」の初めての本公演のほか、ワークショップ、シンポジウムなど多様なプログラムを展開する。
[日程]9月22日～10月8日
[会場]彩の国さいたま芸術劇場、さいたま市市街地

●東京都三鷹市
三鷹市美術ギャラリー
〒181-0013　三鷹市下連雀3-35-1 CORAL(コラル)5F
Tel. 0422-79-0033　浅倉祐一朗
http://mitaka-sportsandculture.or.jp/gallery/

開館25周年 横山操展～アトリエより～
開館記念展で取り上げた三鷹市ゆかりの日本画家・横山操を新たな視点から紹介する企画展。横山操夫人が亡くなり、アトリエの調査に入ったことをきっかけに企画された。「アトリエより」と題し、収蔵作品等とも併せて、これまで未陳であった作品や愛用品なども展示する。
[日程]8月4日～10月14日
[会場]三鷹市美術ギャラリー

●東京都多摩市
多摩市文化振興財団
〒206-0033　多摩市落合2-35
Tel. 042-375-1414　白川早良
http://www.partama-fes.com/

パルTAMAフェス2018 in 多摩センター～音楽と演劇を楽しむ2日間～
多摩の街を舞台に、地域の楽しさを再発見することを目指す体験型フェスティバル。野外水上ステージでの演劇公演(パルテノン多摩×劇団子供鉅人『夏の夜の夢』)をはじめ、多彩なジャンルのパフォーマンスが各場所で披露される。スタンプラリーやマルシェも同時開催されるとともに、関連企画として香取直登(コンドルズ)によるダンスワークショップなども実施。
[日程]9月15日、16日
[会場]パルテノン多摩、パルテノン大通り、多摩中央公園きらめきの池

●横浜市

横浜みなとみらいホール
〒220-0012　横浜市西区みなとみらい2-3-6
Tel. 045-682-2020　小野寺正憲
http://www.yaf.or.jp/mmh/index.php

ピアノとパントマイム　二人の芸術家の出逢い　ピアノ・サロン・コンサート《ノスタルジー巴里》

開館20周年を迎えた横浜みなとみらいホールと横浜美術館企画展「モネ それからの100年」の連携事業。ホールの舞台を往時のサロンに見立て、あたかも芸術家たちが集った同じ空間に観客を誘うコンサートを開催する。三舩優子のピアノ演奏とフィリップ・エマールの多彩なパフォーマンスで舞台を豪華に彩る。
[日程]9月7日
[会場]横浜みなとみらいホール

●相模原市

相模原市民文化財団
〒252-0303　相模原市南区相模大野4-4-1
Tel. 042-749-2200　佐藤郁
http://hall-net.or.jp/01greenhall/

ドヴォルザークの生涯～ブラームスに認められたメロディーメーカー～

相模原にゆかりのあるプロ音楽家団体「相模原音楽家連盟」によるコンサート。今回のテーマは、ブラームスに楽才を認められ、やがてその活躍の場が国外に広がり名声を得たドヴォルザーク。作曲家、指揮者、教師の顔を持ち、鉄道好きでもあった彼の生涯を辿りながら、素朴で郷愁漂う名曲を、ピアノ、ヴァイオリン、チェロの演奏にお話を交えてお届けする。
[日程]9月9日
[会場]相模女子大学グリーンホール

北陸・中部

●新潟県長岡市

長岡市栃尾美術館
〒940-0237　長岡市上の原町1-13
Tel. 0258-53-6300　近藤亜希子
http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=135

池田光宏展　きっとそれも誰かの仕業

長岡造形大学で教鞭を執る美術家・池田光宏の個展。栃尾・長岡地域の人々の住宅や店舗にさりげなく置かれた絵画や工芸品などを撮影し、架空の展覧会を想定したバナーを制作する〈BGAプロジェクト〉など、地元で行われたプロジェクトも紹介する。“普通の暮らし”の中に新たな眼差しを開くきっかけを生み出す池田のプロジェクトの一端を見ることができる。
[日程]7月28日～9月9日
[会場]長岡市栃尾美術館

●石川県金沢市

金沢21世紀美術館
〒920-8509　金沢市広坂1-2-1
Tel. 076-220-2800 黒澤・中田・高橋
https://altering-home.com/

東アジア文化都市2018金沢　変容する家

金沢の街なかの民家やビルなど“日常空間”を舞台に、日本・中国・韓国の現代美術作家が“家”をテーマとした作品を発表する大規模な展覧会。川俣正をはじめとする各国を代表するアーティストや金沢ゆかりのアーティストなど22組が集結し、新作も多数発表予定。さまざまな“家”を訪ねて作品とまちの魅力を発見する。
[日程]9月15日～11月4日
[会場]金沢市内(広坂エリア、石引エリア、寺町・野町・泉エリア)

●岐阜県岐阜市

岐阜県美術館
〒500-8368　岐阜市宇佐4-1-22
Tel. 058-271-1313　西山恒彦
http://www.kenbi.pref.gifu.lg.jp/

IAMAS ARTIST FILE #06「みるこころみるかえりみる」　クワクボリョウタ　会田大也

情報科学芸術大学院大学[IAMAS]との連携によって開催される展覧会。クワクボリョウタによる新作インスタレーションの展示を中心に、期間中は会田大也とIAMASの学生たちによる「パスタ建築ワークショップ」や、「観察ねんど」など独特なワークショップが行われ、見る・伝える・考えるといった多面的な体験を来場者と共につくり上げる。
[日程]9月8日～11月3日
[会場]岐阜県美術館

●静岡市

静岡市文化振興財団
〒420-0851　静岡市葵区黒金町1-9
Tel. 054-251-2200　竹内啓(あきら)
http://www.aoi.shizuoka-city.or.jp/

J.S.バッハの世界～《音楽の捧げもの》とカンタータ～

音楽の父と言われるバッハ生誕333年に当たり、その深淵を目の当たりにする演奏会。ソプラノの森麻季をはじめとする日本を代表する声楽ソリスト陣と、東京交響楽団のコンサートマスター水谷晃をはじめとする器楽陣が、この日のためだけに集まり、バッハの室内楽演奏会としては密度の濃い王道のプログラムを披露する。
[日程]10月6日
[会場]静岡音楽館AOI

●静岡県藤枝市

藤枝市
〒426-8722　藤枝市岡出山1-11-1
Tel. 054-643-3036　鈴木裕美
http://www.city.fujieda.shizuoka.jp/bunka/bunka/academy/1507855163517.html

藤枝市子ども合唱アカデミー「秋の音楽会」

市の「合唱文化の復活」と「音楽によるまちづくり」を目的とする子ども合唱アカデミー事業の一つとして開催。中高生、藤枝少年少女合唱団による合唱のほか、タケカワユキヒデ(ゴダイゴ)を招き、事前公募の子どもたち(小学1年～高校1年)とのジョイントライブも行う。『ビューティフル・ネーム』などの名曲を披露。
[日程]9月30日
[会場]藤枝市民会館

前回の様子(プロのアーティストと子どもたちの共演による音楽コンサート)

●愛知県豊田市

豊田市文化振興財団
〒471-0025　豊田市西町1-200(豊田参合館内)
Tel. 0565-35-8200　光武真也
http://www.t-cn.gr.jp/

開館20周年記念公演　とよたワールドマップ

豊田市コンサートホール・能楽堂20周年＆豊田市国際交流協会30周年記念として、世界の豊かな文化を感じる催し。ラグビーワールドカップやオリンピックを前に、世界21カ国の国歌演奏、日本の伝統芸能と世界の芸能、茶道や折り紙などの日本の伝統文化の体験、国際バザーやワークショップが同時に開催される。
[日程]10月7日
[会場]豊田市コンサートホール・豊田市能楽堂ほか

●愛知県知立市

ちりゅう芸術創造協会
〒472-0026　知立市上重原町間瀬口116
Tel. 0566-83-8100　竹田沙緒莉
http://patio-chiryu.com/

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

市民とつくる舞台芸術プロジェクト　第13回しみん劇『決定版 十一ぴきのネコ』

市民とつくる舞台芸術プロジェクトの企画として、井上ひさし作の『決定版 十一ぴきのネコ』を、一般公募のオーディションで選ばれた市民15人が、演出家の佃典彦(劇団B級遊撃隊)の指導の下、一つの舞台としてつくり上げる。関連イベントとして公開リハーサル・バックステージ見学も実施。

[日程]9月8日、9日

[会場]知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)

第12回しみん劇『決定版 十一ぴきのネコ』(2016年6月)

近畿

●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

〒520-0806 大津市打出浜15-1

Tel. 077-523-7136　福田さくら

https://www.biwako-hall.or.jp/

びわ湖ホール　オペラへの招待『ドン・ジョヴァンニ』

「オペラへの招待」はオペラが初めてという方から愛好家の方まで楽しめる本格的なシリーズ。今回はモーツァルトの名作『ドン・ジョヴァンニ』で、劇場専属のびわ湖ホール声楽アンサンブルが出演、シリーズ初登場となる伊香修吾が演出を手掛ける。開演前に演出家による見どころのお話があるほか、青少年向けチケット価格の設定も。

[日程]9月15日、16日

[会場]滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●滋賀県近江八幡市

安土町文芸の郷振興事業団

〒521-1321　近江八幡市安土町桑実寺777

Tel. 0748-46-6507　萩原愛子

http://www.bungei.or.jp/

城奈緒美パイプオルガンコンサート

織田信長の時代、日本で最初に輸入されたオルガンによって西洋の音楽が奏でられていた“安土”。西洋文化の根付くこの土地でホール専属のオルガニスト城奈緒美によるパイプオルガンコンサートを開催。第2部には音楽ユニットTSUKEMENのヴァイオリニストKENTAをゲストに迎え、オルガンとヴァイオリンのアンサンブルをお届けする。

[日程]9月8日

[会場]安土文芸セミナリヨ

●京都市

京都府立府民ホール“アルティ”

〒602-0912　京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1

Tel. 075-441-1414　松岡・碓井

http://www.alti.org/

サラ・デイヴィス・ビュクナー Mozart Innovation

クラシック音楽、ジャズ、芝居など上質な舞台芸術が楽しめる「ALTI芸術劇場」シリーズVol.44。今回はピアニストのサラ・デイヴィス・ビュクナーによるモーツァルトのピアノソナタ全曲＋αをコンセプトごとに括る独自企画でお届けする(全4回公演)。開館30周年記念公演として、著名な執筆者による特別プログラムも制作。

[日程]9月8日、12日、15日、22日

[会場]京都府立府民ホール“アルティ”

●大阪市

大阪クラシック実行委員会

〒553-0005　大阪市福島区野田1-1-86

Tel. 06-6469-5176　宮上真弓

http://www.osaka-classic.com/

大阪クラシック

大阪フィルハーモニー交響楽団など関西のプロオーケストラ出演するクラシック音楽の祭典。13回目を迎える今年はホールコンサートのほか、中之島や御堂筋のオフィスビルやカフェ、ホテルなど市内31会場で81公演のさまざまなプログラムが楽しめる。未就学児の入場が可能な会場や、無料公演も多く、普段クラシック音楽にふれる機会の少ない人も気軽に参加できる。また、学生による吹奏楽の特別公演も開催。

[日程]9月9日～15日

[会場]大阪市中央公会堂、フェスティバルホール、大阪市役所ほか

●神戸市

神戸市立小磯記念美術館

〒658-0032　神戸市東灘区向洋町中5-7

Tel. 078-857-5880　廣田生馬

http://www.city.kobe.lg.jp/koisomuseum/

没後30年　小磯良平展　西洋への憧れと挑戦―まだまだ、ながめつくせない―

神戸に生まれ、その生涯を閉じた小磯良平(1903～88)の没後30年を記念した特別展。小磯の創作活動において、大きな刺激を与えた西洋美術との関わりに焦点を当て、小磯作品のほか、自身が所蔵していた資料や西洋の画家たちの作品なども展示し、彼の「西洋への憧れと挑戦」を多面的に解き明かしていく。

[日程]9月15日～11月25日

[会場]神戸市立小磯記念美術館

小磯良平《コスチューム》(1935年／大阪・中之島リーガロイヤルホテル蔵)

●奈良県斑鳩町

斑鳩町文化振興財団

〒636-0123　生駒郡斑鳩町興留10-6-43

Tel. 0745-75-7743　青木俊裕

http://www.town.ikaruga.nara.jp/ikaho/

第12回斑鳩雅楽フェスティバル～雅楽幽遠の奏～

聖徳太子ゆかりの地・斑鳩で、雅楽の魅力にふれる機会づくりとして、地元の雅楽愛好団体が一堂に会するフェスティバル。いかるがホールの文化講座「雅楽講座」の受講生で結成された「斑鳩雅楽会」などが出演し、12回目となる今年は「越殿楽」ほか管絃の名曲や「納曾利」など舞楽の上演、講師によるレクチャーも実施。

[日程]9月23日

[会場]いかるがホール

中国・四国

●鳥取県岩美町

岩美現代美術展実行委員会

〒681-8501　岩美郡岩美町浦富675-1(岩美町役場商工観光課内)

Tel. 0857-73-1416　細田真央

http://iwamiart.trinitart.com/

第11回岩美現代美術展

旧岩美病院を主会場に、アーティスト・イン・レジデンス形式で展覧会を行う。今年度は和紙造形作家・友田多恵子、現代美術作家・金善東、鳥取県東部で活躍する現代写真家4名の作品

友田多恵子の作品(個展「柔らかな空間」／2010年)

を展示。ほかにも毛利泰房と高木義隆による子ども向けワークショップ、アーティストと地域住民のランドアート協同制作などを各所で展開。
[日程]9月1日～18日
[会場]Studio652(旧岩美病院)ほか

●島根県安来市
安来市／安来市総合文化ホール アルテピア
〒692-0014　安来市飯島町70
Tel. 0854-21-0101　坂口寛
https://www.artepia.jp/

能と神楽の競演『紅葉狩』

安来市総合文化ホール アルテピアでは、開館1周年記念と安来市の市木である紅葉にちなんで「～能と神楽の競演『紅葉狩』～」が開催される。第1部では演目の原点である能による『紅葉狩』を、第2部では歴史的に新しい神楽による『紅葉狩』を能舞台で演ずる。同じ演目を能と神楽の異なる視点から観賞できるところが最大の見どころ。
[日程]9月30日
[会場]安来市総合文化ホール アルテピア

神楽 紅葉狩

●広島県福山市
ふくやま美術館
〒720-0067　福山市西町2-4-3
Tel. 084-932-2345　鈴木一生
http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/

開館30周年記念　岸田劉生展

岸田劉生作品を多く所蔵する本館の開館30周年を記念し、劉生を代表する麗子像をはじめ、全国34カ所の美術館や博物館、個人所蔵者が所有する名品94点を風景画・初期、肖像画、麗子像、静物画、風景画、版画・日本画という6つの主題に分けて展示。それぞれの劉生の作風の変遷と深化を見ることができる。
[日程]9月15日～11月4日
[会場]ふくやま美術館

●香川県高松市
高松市美術館
〒760-0027 高松市紺屋町10-4
Tel. 087-823-1711　毛利直子
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/

高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.07／つながりかえる夏

2009年度より始まり、8回目を迎える現代アートのグループ展。開館30周年を迎える今年は、今一度“開かれた美術館”を意識し、表現方法もさまざまな4名の作家(藤浩志、千葉尚実、下道基行、山城大督)による複数の回路で、美術(館)を多方面に「ひろげ」「ひらき」「ふりかえり」、世代を超えた幅広い層にアクセスしてもらいたいとの思いを込めて開催。
[日程]7月27日～9月2日
[会場]高松市美術館

九州・沖縄

●北九州市
北九州芸術劇場
〒803-0812　北九州市小倉北区室町1-1-1-11
Tel. 093-562-2655　市川・加賀田
http://q-geki.jp/

北九州芸術工業地帯 三宜楼公演『うろきんさ』

観光資源とアートを掛け合わせ、まちと一緒に新しい魅力を生み出す「北九州芸術工業地帯」シリーズ。今回は門司の人々に愛される旧料亭「三宜楼(さんきろう)」で、康本雅子(振付)、オオルタイチ(音楽)、戸井昭人(テキスト)が滞在制作し、公演を行うユニークな企画。大広間がまるごと舞台となり、異世界に観客を引き込む。
[日程]9月15日、16日
[会場]三宜楼 百畳間

●福岡県田川市
田川市美術館
〒825-0016　田川市新町11-56
Tel. 0947-42-6161　原田歩夢
http://tagawa-art.jp/

夏休み特別企画 作家がつくるぼくらのひみつ基地とわたしの魔法のお部屋

筑豊で活動する現代アーティストを中心につくり上げる展覧会。3回目となる今回は「ひみつ基地」「魔法のお部屋」がテーマ。展示される約120点の作品の中には触れたり、身につけたりすることが可能なものも。美術館に足を運んだことのない人にも楽しく観覧してもらえる内容となっている。
[日程]8月1日～9月2日
[会場]田川市美術館

講座・シンポジウム等

文化施設等の耐震天井セミナー

文化施設等の天井は音響効果を高めるため、複雑な形状かつ重い構造となっている。このような天井が地震等によって落下すると大惨事に至る可能性がある。本セミナーでは天井の耐震化対策について設置者向けに被害例や法令、計画、現状調査、設計および施工事例等の最新情報を専門家がわかりやすく解説する。
[日程・会場]9月10日：名古屋国際センター「別棟ホール」／9月11日：目白大学新宿キャンパス「研心館ホール」／10月18日：エル・大阪「南ホール」
[問い合わせ]日本耐震天井施行協同組合(JACCA)
Tel. 03-3539-6569
http://www.jacca.or.jp/

特集 アートプロジェクト

夏フェス以降も全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクトを紹介します。
※開催地の北から順に掲載。
会は会場、問は問い合わせ先です。
(↷は地域創造助成事業)

●青森県八戸市
10月20日～11月11日

なんごう小さな芸術祭

2011年から実施してきた、アートで地域の魅力を再発見するプロジェクト。捕鯨漁従事者が多くいた地域の歴史をテーマにした中屋敷法仁の新作演劇作品や、地元えんぶり組の伝承を独自に解釈した大駱駝艦の舞踏作品、市民と一緒に制作した岡博美の染色作品の展示など、さまざまなジャンルのプログラムを、ゆっくりじっくりと楽しむ芸術祭となっている。
会 八戸市南郷文化ホール、朝もやの館、舘のやかた ほか
問 八戸市南郷文化ホール
Tel. 0178-60-8080

●秋田県秋田市
9月21日～10月14日

U18クリエイティブキャンプ

高校生ならではの視点で秋田の文化資源を掘り起こし、観光・文化振興の向上することを目的に、ユニークな合宿プランを公募。13件の応募から選出した高校生グループ3団体が8月に県内各所で合宿を実施。プランは「千人へのインタビュー」(都立荒川商業)や「長野と秋田の祭りを融合し、新しいお祭りをつくる」(エクセラン高校)、「里親の理解促進を目的に親と暮らせない子どもたちとゆるキャラをデザイン」(大阪市立工芸高校ほか)。9月には合宿の様子

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

を写真や映像で報告する成果展を実施する。
㊗秋田公立美術大学 サテライトセンター（秋田駅西口 フォンテAKITA6階）
㊐秋田公立美術大学、アーツセンターあきた　Tel. 018-888-8137

七福神漬けNEO（長野県・エクセラン高等学校）　提供：秋田公立美術大学

●山形県山形市　9月1日〜24日
みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2018
山形市で2年に一度開催されている現代アートのフェスティバル。会期中の金・土・日・祝日に開催され、国の重要文化財「文翔館」をメイン会場とし、多彩なプログラムを展開する。「山のような」をキーワードに、郷土が生んだ世界的な絵本作家として知られる荒井良二芸術監督の下、ゲストアーティストや市民が山形を表す作品を提示する。
㊗文翔館ほか市内各所
㊐山形ビエンナーレ事務局
Tel. 023-627-2091

荒井良二『山のヨーナ』（2018メインポスターのためのビジュアル）

●東京都豊島区
9月1日〜12月9日
東京芸術祭
東京の多彩で奥深い芸術文化を通し世界と繋がることを目指して、2016年にスタートした都市型総合芸術祭。3回目の今年から宮城聰総合ディレクターを筆頭にした「プランニングチーム」を結成。国内外のアーティストによる作品を上演する芸術祭直轄プログラムが加わった約30の幅広いプログラムが展開される。
㊗東京芸術劇場、あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）、池袋西口公園ほか
㊐東京芸術祭組織委員会事務局
Tel. 03-6388-0119

●横浜市　9月21日〜10月28日
黄金町バザール2018―フライング・スーパーマーケット
“街”という日常の空間を舞台に、2008年にスタート。11回目の今回は、7カ国17組のアーティストが滞在制作した作品展示に加え、黄金町のアートシーンを紹介する特別プログラムを展開。川や高架下、公共空間、地域の商店などを架空のスーパーマーケットに見立て、「地産」で「新鮮」で多様なアート作品が並ぶ。
㊗京急線日ノ出町駅〜黄金町駅間の高架下スタジオ、周辺のスタジオ、地域の商店、屋外空地ほか
㊐黄金町エリアマネジメントセンター　Tel. 045-261-5467

●神奈川県逗子市
10月12日〜28日
逗子アートフェスティバル2018
逗子市の緊急財政対策により、一度は開催が白紙になったが、自主開催を求める20〜70歳代の市内外から集まった人々によるコミュニティ「逗子アートネットワーク（ZAN）」によって、クラウドファンディングを活用した開催が決定。「MIRRORBOWLER」「池子の森の音楽祭」などの運営側の企画や、地元アーティストの発掘・支援を目的にした「アートフォリオ展」と自立した企画を公募する「自由企画」の2つの公募企画がある。
㊗亀岡八幡宮、池子の森自然公園400mトラック、逗子会館、逗子銀座商店街等
㊐逗子アートフェスティバル実行委員会
Tel. 046-873-1111（内線：278）

●長野県上田市
9月15日〜11月11日
上田街中演劇祭2018
今回で2回目となる街中演劇祭。招聘した劇団と地元劇団を同じ土俵で紹介し、地域の演劇シーンの活性化を図る。アーティスト・イン・レジデンスとして、おなじみの戯曲を長野県バージョンにアレンジし、招聘俳優と地元劇団のコレボレーションで公演するなど、地方と都市の関係性についても問いかける試み。
㊗犀の角、26bldg.、スタジオセブンツー、ノキロソーコほか
㊐シアター＆アーツうえだ
Tel. 0268-71-5221（7:30〜10:00／16:00〜21:30、月曜定休）

●静岡県静岡市・富士市・富士宮市　10月27日〜11月25日
駿河の国の芸術祭 富士の山ビエンナーレ2018
富士山を一望できる静岡県富士市、富士宮市、静岡市3市の魅力を現代アートを通じて再発見する芸術祭。創造性あふれる次代の「若手作家の育成の場」、文化資源の発掘と再認識をアプローチする「地域に眠る文化や歴史とアートの融合」、参加者すべてが地域に愛着と誇りをもてる「市民とアーティストと鑑賞者との相互交流」をテーマに掲げ、各市の歴史的建造物や産業遺構などを舞台に著名作家の作品展示や地域住民とのプロジェクトなどが展開される。
㊗静岡市・富士市・富士宮市の歴史的建造物・産業遺構・空き家・空き地ほか
㊐富士の山ビエンナーレ実行委員会（ヤツクラ内）
Tel. 0545-81-0063

前回の展示（望月章司）

●愛知県豊田市
9月15日、16日、22日、23日
Recasting Weeks（リキャスティング・ウィークス）『HYBRID BUNKASAI』
アーティスト・ユニットNadegata Instant Partyがディレクターを務める「とよた市民アートプロジェクト」のアートプロジェクト。2017年から開始され、第3弾企画となる『HYBRID BUNKASAI』は、廃校になった高校を舞台に文化芸術の発表の場をつくり出す試み。公募によって集まった約30団体が音楽やダンス、アート作品などを出展する。
㊗旧豊田東高校
㊐とよた市民アートプロジェクト推進協議会事務局
Tel. 0565-34-6631

●京都市　10月6日〜28日
KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2018
2010年に始まった京都初の国際舞台芸術フェスティバル。9回目を迎える今年は女性アーティストおよび女性性をアイデンティティの核とするアーティスト／カンパニーに焦点を当て、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカなどから全12組の作品を公式プログラムとして上演。人間の根源的な生／性に対する視点を通して社会に鋭い問いを投げかける。
㊗ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋

座、京都府立府民ホール“アルティ”、元離宮二条城ほか
問京都国際舞台芸術祭実行委員会　Tel. 075-213-5839

ロベルタ・リマ『水の象(かたち)』
Photo: Tomi Kattilakoski. 2018. Courtesy of Roberta Lima and Charim Galerie.

●神戸市　9月8日～11月25日
六甲ミーツ・アート 芸術散歩2018
六甲の自然を感じながら、ピクニック気分で現代アートを楽しむことができるアートイベント。9回目となる今回は、安藤忠雄設計の「風の教会(六甲の教会)」を会場に加え、公募アーティストを含む37組の作品が六甲ガーデンテラスほか10会場に展示される。期間中は、ワークショップをはじめとするさまざまなイベントが開催される。
会六甲ガーデンテラス、自然体感展望台 六甲枝垂れ、六甲山カンツリーハウスほか
問六甲ミーツ・アート芸術散歩2018インフォメーション
Tel. 078-891-0048

●兵庫県伊丹市　9月7日～16日
鳴く虫と郷町
江戸時代に親しまれた虫の音を楽しむ「虫聴き」を現代風にアレンジ。伊丹郷町館を中心に、市内文化施設や商店街、街路樹などで約15種3,000匹の虫の音色を楽しめる。また、暗い酒蔵を懐中電灯の灯りで探検しながら虫の音を聞く「鳴く虫と暗蔵(アングラ)」や、伊丹の地酒を虫の音と共に楽しむ「酒樽夜市」など、会期中は市内各所で50を超える関連イベントが開催される。
会伊丹市立伊丹郷町館、市内公共施設、周辺商店街各所、三軒寺前広場、市内郵便局ほか
問いたみ文化・スポーツ財団
Tel. 072-778-8788

手づくりの行灯が夜の町を照らす「まち灯りと鳴く虫」

●奈良県全域
9月22日～10月7日
奈良・町家の芸術祭 はならぁと2018　こあ
地域価値の発掘作業を通して奈良県の豊かな文化や暮らしを過去から未来に繋ぐアートプロジェクトとして開催され、今年で8回目を迎える。美しい町並みの保存や貴重な町家の利活用など、地域価値の維持・向上を目標とし、今年は、参加アーティストによる滞在制作や、地域住民の声をヒアリングした企画立案を進めている。
会奈良県全域
問奈良・町家の芸術祭HANARART実行委員会
Tel. 0745-80-2312

●鳥取県鳥取市　9月6日～23日
鳥の演劇祭11
劇場だけでなく鳥取市鹿野町内のさまざまな場所で展開する演劇祭。今年で11回目を迎える。国内外の優れた作品の提供と併せて、障がいのある人たちによる上演、大人も楽しめる子どものための上演、若手による上演、コミュニティと共につくった作品など、さまざまな角度から地域ならではの祝祭空間をつくる。
会鳥の劇場、鹿野町内各所
問鳥の劇場運営委員会
Tel. 0857-84-3612

●愛媛県松山市
2017年9月2日～19年2月28日
道後オンセナート2018
日本最古といわれる道後温泉を舞台にしたアートの大祭。「アートにのぼせろ～温泉アートエンターテイメント～」をテーマに、子どもから大人まで自由に感じて、のぼせるほど夢中になれるようなエネルギー溢れる祭りを提案する。期間中は大巻伸嗣や近藤良平ら約25名のアーティストによる道後温泉にオマージュ(賛歌)を捧げた作品が展示・上演される。
会道後温泉、その他周辺エリア
問道後オンセナート2018案内所
Tel. 089-907-5930

大巻伸嗣『つばき』(2018年)
©SHINJI OHMAKI / Dogo Onsenart 2018

●福岡県糸島市
10月20日、21日、27日、28日
糸島国際芸術祭2018 糸島芸農
大都市圏に隣接しながらも、美しい自然と豊かな農業などの生産現場に恵まれ、近年多くのアーティストが移住し注目されている糸島二丈松末地区に、国内外のアーティストが集う芸術祭。2012年から隔年で開催し、4回目となる今回のテーマは「マレビトの通り道」。食や農業といった日常生活の関心事を、アートを通じて表現することで、地域の活性化や魅力の再発見に繋げる。
会糸島市二丈松末地区、深江地区ほか
問糸島芸術祭「糸島芸農」実行委員会事務局
Tel. 092-325-1773

●大分県日田市
10月6日～11月25日
水郷ひた芸術文化祭2018 大巻伸嗣個展『SUIKYO』
昨年から現地でリサーチを重ねてきた現代美術家・大巻伸嗣が、水と森に囲まれた日田の歴史や文化などから着想した新作2点を発表する。また、日田の自然や文化を紹介するオリジナルマップを片手に、作家が惹かれたまちの魅力を追体験することで、より深い作品体験が得られる。関連イベントとして市内で読み聞かせを行う「日田ブッククラブ」との市民参加型プロジェクトも。
会日田市複合文化施設 AOSE、旧料理屋『盆地』
問第33回国民文化祭日田市実行委員会事務局
Tel. 0973-22-6868

●大分県別府市
10月6日～11月25日
アニッシュ・カプーア IN 別府
毎年、国際的に活躍する1組のアーティストを別府に招聘し、地域性を活かしたアートプロジェクトを実現する個展形式の芸術祭。「第33回国民文化祭・おおいた2018」および「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」のリーディング事業のひとつとして開催される今回は、大規模な作品で世界中を魅了してきたアニッシュ・カプーアの作品10点以上が展示される。
会別府公園
問混浴温泉世界実行委員会(BEPPU PROJECT内)
Tel. 0977-22-3560

アーツセンター情報

●情報提供のお願い
地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター（ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます）の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄で掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先
地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●岩手県大槌町

大槌町文化交流センター おしゃっち

〒028-1117　上閉伊郡大槌町末広町1-15
Tel. 0193-27-5181
http://www.town.otsuchi.iwate.jp/gyosei/
◎2018年6月10日オープン

東日本大震災で大きな被害を受けた大槌町の中心である御社地（おしゃち）周辺にあった旧御社地ふれあいセンターと町立図書館等を一つに集約してオープンした復興のシンボル的施設。面積の98%が森林である町の特色を表すように、多くの県産木材を使用して建造。多目的ホールやキッチン付きの会議室、スタジオなど多彩な施設を備え、地元に親しまれるコミュニケーション拠点を目指している。ほかにも震災の記憶と教訓を後世に伝える役割を担う「震災伝承展示室」を設置。被災状況や復興の歩みを町民の証言を基に、犠牲になった町民の人柄などを聴き取った回顧録「生きた証（あかし）」から6人を取り上げて紹介しており、多くの人が繰り返し訪れることができるように展示内容を定期的に入れ替える予定。また多目的ホールでは、被災と復興の概要を映像で説明し、町役場が被災して行政機能が停止しても、住民同士の共助が有効に働いたことを伝えていく。
［オープニング事業］佐渡裕＆スーパーキッズと大槌町民楽団とのジョイントコンサートほか
［施設概要］多目的ホール（136席）、会議室、図書館、レッスン室ほか
［設置者］大槌町
［管理・運営者］大槌町
［設計者］前田・近代・中居・TOC異業種特定建設共同企業体

●山形県鶴岡市

荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）

〒997-0035 鶴岡市馬場町11-61
Tel. 0235-24-5188
http://www.city.tsuruoka.lg.jp/bunka/bunka/tact/koushikihp.html
◎2018年3月18日グランドオープン

旧鶴岡市文化会館（1971年開館）を立て替えてオープンした新文化会館。外観は複数の屋根と壁が柔らかく重なった特徴的な形状で、周囲への圧迫感を和らげ、周辺の街なみと調和を図り、ホール内も屋根と同様の曲線のイメージでデザイン。大ホールは東北では珍しいワインヤード型で、生音の響きにこだわり、客席とステージの距離をできるだけ近くなるようつくられている。また中心市街地の鶴ヶ岡城址の文化財が立ち並ぶ観光スポットに位置するため、催事がない時も観光客や市民に“いこいの場”として利用してもらいたいという思いから、回廊型のエントランスホールは常時開放され、庄内藩校致道館を借景とした広場的な空間となっている。旧施設では市民利用が多く、貸館を中心とした運営だったが、今後はアウトリーチや普及事業にも力をいれていく予定。
［オープニング事業］「NHK交響楽団こけら落とし公演」ほか
［施設概要］大ホール（固定1,120席、多目的鑑賞室15席）、小ホール（247m²）、練習室（2室）、会議室（2室）ほか
［設置者］鶴岡市
［管理・運営者］鶴岡市
［設計者］妹島・新穂・石川共同体

Topics 八戸市中心街に新たな魅力スポットがオープン

八戸市の観光・文化スポットとして定着した「八戸ポータルミュージアム　はっち」の正面に、新たな交流施設「八戸まちなか広場 マチニワ」が7月にオープンした。ガラスの屋根で覆われた開放的な広場で、小路や周りの建物内の通路を経由すると、各方面へ通り抜けることができるなど、大型店舗の撤退などで厳しい状況にあった八戸の中心市街地の回遊性を高める狙いがある。施設内には、青森県出身のアートディレクター森本千絵さんが監修したシンボルオブジェ「水の樹」や、市民ワークショップで植えた植栽などを配置し、自然を感じられる空間となっている。椅子やテーブルが置かれ休憩や交流のスペースとして使えるほか、階段の段差を活かしたスペースはステージとしても利用ができる。

開館前からこの新しい施設をどのように活用したいか市民ワークショップを開催し、出されたアイディアを運営方針の参考としたほか、実際にどのように施設や備品が使えるのか施設利用説明会をほぼ毎日開催。すでに、大型ビジョンを活用したe-sportsや全天候型の広場であることを活かしたクラフト市やフードを販売するマルシェなどさまざまなイベントを開催予定。今後は向かいにある「はっち」とも連携しながら、街なかの賑わいを生み出していくことが期待される。

●八戸まちなか広場「マチニワ」
［開館］2018年7月21日
［所在地］〒031-0032　青森県八戸市大字三日町21-1
Tel. 0178-22-8228　http://hacchi.jp/machiniwa/

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

横浜市

KAAT神奈川芸術劇場
KAATキッズ・プログラム2018

「キッズ・サマー・パーティー in KAAT高原キャンプ場」

上：「キッズ・サマー・パーティー」会場の様子
下：『不思議の国のアリス』(撮影：宮川舞子)

●キッズ・サマー・パーティー in KAAT高原キャンプ場
[日程]7月21日、22日、28日、29日(1日3回)
[会場]KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ
[美術・ディレクター]山添joseph勇(深沢アート研究所)

●KAATキッズ・プログラム2018
『不思議の国のアリス』再演(7月20日～22日／全国17劇場ツアー7月24日～9月22日)、「キッズ・サマー・パーティー」(上記参照)、劇団ザ・ラスト・グレート・ハント『ニューオーナー―幸せを探して― NEW OWNER』(8月4日、5日)、キャサリン・ウィールズ劇団『ホワイト』(8月7日～9日)、カナダ・ケベックから演出家を招聘した新作『グレーテルとヘンゼル』(8月18日～26日)
※キッズ・プログラムは通年事業として取り組んでいたが、2014年から夏のシーズン・プログラムに移行。今年は「KAAT the ツアー」は休止。

＊2000年に設立された英国の劇団パンチドランクの活動によって注目されるようになった没入型、観客参加型演劇のこと。2011年からパンチドランクがニューヨークの閉鎖された古いホテルを会場に展開している「スリープ・ノー・モア」(細部まで造り込まれた空間で『マクベス』をベースにした無言のパフォーマンスがあちこちで展開され、仮面をかぶった観客は歩き回りながら各自自由にその場を体感する)がロングランヒット中。

KAAT神奈川芸術劇場で劇場の可能性を拓く面白い試みが行われた。キッズ・プログラムの一環として企画された「キッズ・サマー・パーティー in KAAT高原キャンプ場」だ。劇場を高原キャンプ場に見立て、野外音楽フェスのような催しを、0歳から楽しめる90分のプログラムとして仕立てた。大人も子どもも引き込むアーティストの力、フィクションをつくり出す劇場の力(音響、照明、舞台美術など)、スタッフのアイデアを総動員して実現した一種のイマーシブ・シアター(*)になっている。7月22日、私も懐中電灯や雨具を持参し、泊りがけのフェスに出かける体裁で劇場に向かった。

キャンプ場ゲートに模様替えされたロビーには、半パン姿のお父さん、お母さん、リュックを背負った子どもたちが行列。ベビーカーで赤ちゃんと一緒にやってきたお母さんもいる。靴を脱いで人工芝を敷き詰めたスタジオに入ると、スクリーンには高原のイラストが映し出され、動物たちの鳴き声が響き、いくつものテントやステージが設えられていた。みんな思い思いの場所に座り、寝袋を広げる家族もいる。

しばらくすると賑やかにHei Tanakaのメンバーが登場。コンサート並みに仕込んだスピーカーからはコミカルでノリノリのロックが響き、リアルタイムにオトナ可愛い映像をつくり出すヴィジュアルジョッキーのonnacodomoも加わり、フェス気分にどっぷり。雨乞いの音楽で本水の雨が降り、照明が夕暮れに変わると心地よいスティールパンの演奏が始まり、星がまたたきロケットが宇宙に誘う夜にはザ・ぷーが音楽やコント、パペットをミックスしたパフォーマンスで盛り上げる大騒ぎのパーティーが始まった。

●

プロデューサーの石井宏美さんは「“子どもに開かれた劇場”を目指して当初からキッズ・プログラムに力を入れてきた。でも子どものいる友人に『静かにしていられないから劇場に連れて行くのは無理』と言われ、それなら0歳から入れて大人も楽しめるものができないかと、パフォーマンス＋空間の面白さを楽しんでもらえる企画にした」と言う。

劇場のノウハウだけでは足りないところをフォローするため、子どものワークショップを展開するNPO法人CANVASと連携。また、他の劇場でもアダプテーションできるよう、人工芝やデザインワークなどのベースを提供し、アーティストに各地でチョイスしてもらうプログラムも準備しているとか。

このサマー・キャンプだけでなく、KAATでは毎年のように「大人も子どもも満足できるようつくり込んだ」オリジナル作品をプロデュース。バラエティに富んだ舞台にふれてほしいため、ジャンルは固定せず、これまでに演劇『暗いところからやってくる』(12年初演。前川知大作・演出)、ミュージカル『ピノキオ～または白雪姫の悲劇～』(13年初演。宮本亜門演出・脚色)、寺村輝夫の人気童話を現代美術家の金氏徹平のインスタレーションで舞台化した『わかったさんのクッキー』(16年初演。岡田利規台本・演出)、ひびのこづえがユニークな造形の衣装を担当したダンス『不思議の国のアリス』(17年初演。森山開次演出・振付・美術)を発表。創造発信に力を入れる公立ホールとして、新しいアーティストが劇場スタッフとの本格的な作品づくりを通じて、子どもという未知の存在(未来)と向き合う機会を提供。コンテンポラリーで創造性溢れる舞台成果を収めてきた。初演した次の年に再演とツアーを行い、今年はアリスを全国17カ所で上演している。

制作課の職員で演目検討会議を開き、ボトムアップで企画を上げているそうだが、こうしたフラットな企画づくりができるのもキッズ・プログラムだからだろう。実はもうひとつ、技術と制作の壁を越えてスタッフが大切に育んできた事業がある。リアル脱出ゲームを参考にした「KAAT the ツアー」という謎解きをしながら劇場空間を巡るゲームだ。こうしたベースがあるからこそ、新しいチャレンジもできるのだ。

今回のキッズ・キャンプはそうした力を活かし、物語やテーマを一方的に伝えるのではなく、私が個人的に「広場型演劇」と呼び、世界でイマーシブ・シアターとして注目されている参加者各自が物語をつくれるような世界観のある場になっていた。この可能性をこれからも追求してほしいと感じた取材だった。　(坪池栄子)